

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 A-6 授業づくり

【講師】 伊賀市教育アドバイザー 木村 清俊先生

6月21日(火)、講師に伊賀市教育アドバイザーの木村清俊先生をお迎えし、「授業づくり」の研修講座を実施しました。新規採用者の方を中心に、29名の教職員が受講し、授業づくりの基礎・基本や教師の心がまえ等について教えていただきました。

講座の初めには、具体的に国語科や算数科などの授業の場面を取り上げて、子どもたちの言語活動を豊かにしていくために授業中に言語化させていくことや発言したことを板書に残すことの大切さなどについて学びました。



講義の途中には、実物を見て、触って、学習することの大切さやどのような順番でどこから見せるかの大切さ等について、実際に持ってきていただいた教材を使って、模擬授業を交えながら教えていただきました。

講義の後半には、「教師自身が子どもたち一人ひとりをとらえ、授業でどんなことを考えるかを想定し、発問や授業計画を考えることができるか」や「教室での立ち位置、話す言葉、速さ、声の大きさは適切か」、「子どもたちが考えを持たない状態でペア学習をしていないか」等について問いかけていただき、受講した先生一人ひとりが振り返る時間となりました。

アンケートより 【一部抜粋】

- 授業がおもしろくて、子どもたちが主体的に活動し、学べる環境を教師が作っていく必要があることを学びました。そのために教師自身が、子どもの様子をよく見て、どんな言葉かけをするのか、課題は何か、手立てはどうするか等について考え、子どもの分かる瞬間、輝く笑顔を見られる授業にしていきたいと思いました。(小)
- 具体物を提示するとイメージしやすいだけでなく、子どもの授業に対する取り組みが積極的になることを感じました。教材研究をおこなう際には、何を子どもたちに身に付けさせたいか、また、子どもたちの実態を見て、どのような授業を作ればよいのか考えながら授業づくりをしていきたいと思いました。(小)
- 良かれと思ってしていたことが逆効果であったり、授業でできていなかったことを知ることができ、とても勉強になりました。明日から学んだことを実践していきたいと思いました。(小)
- 授業の中で言語活動の活用の仕方やどのような目的で授業に取り入れるのかについてとても理解できました。「考え」「説明する」「他者にたずねる」こうした関係を作ることができるような授業展開をしていきたいです。また、子ども、教材、指導者の三位一体の関係を忘れず、この教材で子どもがどう反応するか、どう考えるのかを考え、授業計画を立てていきたいと思いました。(中)